

# おどくみ

小劇場

作：青木豪

演出：宮田慶子

## 企画意図

シーズン掉尾を飾る唯一の新作書き下ろしを、新進気鋭の青木豪氏に委嘱、演出は芸術監督となる宮田慶子。青木氏は演劇ユニット「グリング」に所属する脚本家・演出家で、最近外部への書き下ろしも多く、文学座、劇団NLT、劇団新感線、俳優座などへ作品を提供しています。綿密な取材と巧みな状況設定の中から生まれる日常の中のドラマを描き、登場人物間のユーモアある会話の積み重ねにより、それぞれの葛藤や心情、人間関係を描き出す演劇ならではの作風。常に人間への温かい視線を保ちつつ、現代社会への問題提起もしなやかに行うのが特徴です。現代演劇の担い手のひとりとして、今後の活躍も大いに期待できる青木氏の新国立劇場初登場。

弁当屋の厨房における日常会話を通して、天皇とは何かを問う家庭劇。これまでの現代日本演劇の視点とは角度を変え、「となりの天皇家」といった距離感で、「そこにあるはずだが、なかなか見えにくい日本の中心とは何か」を探り、80年代以降の日本とは何かを問おうとする意欲作。

## 作品

時は80年代半ば。神奈川県葉山にある商店街。そこにある弁当屋・岩尾の厨房は、毎日、仕出し弁当の注文生産に追われている。店を切り盛りするのは、岩尾家の主人・幸広ではなく、その妻・良子と、パートの主婦・酒田の二人。そこに岩尾家の長男・健介と長女・結衣子、幸広の弟で嫁の来手が無く、実家に居残ってしまった義人ら、ひとくせふたくせある人々が絡む。

ある日、その岩尾家の日常が変化を見せる。長男・健介は高校で学習院に受かり、写真部に所属したが、ひとつ上にいる宮様と親しくなり、東宮御所に招待されたというのだ。「東宮御所に行くあかつきには、是非、岩尾の弁当を持参して、宮内庁御用達にして来い！」と調子に乗る幸広。普段は父の言葉など無視する健介だったが、これには意外と乗り気になる。かくして、岩尾家の試みはなぜだかうまく行ってしまい、宮内庁から注文が入る。珍しく一丸となって仕事に精を出す岩尾家。弁当を届け万々歳なはずだったのだが、思わぬ異変が起きた。岩尾家にたちまち暗雲が立ちこめるのであったが……

### 作家からのメッセージ

#### 青木 豪

一祈りに似た気持ちで

僕が生まれた横須賀という町は、中上健次さんの描く「路地」にどこか似た町でした。山と海に挟まれて平地が少なく、そこに人がギッシリと住んでいて、肉親や兄弟の愛憎が激しくて、隣近所の噂話が絶えなくて、ときどき殺人や強盗や火事があって、決して穏やかには住んでられない町でした。

僕の実家は、そこで弁当屋を営んでいました。自衛隊や米軍基地や、葉山の御用邸なんかに、時々仕出し弁当をおさめていました。

町内会や学校の運動会に弁当をおさめる時にも、何か間違いがあってはいけないとそれなりに緊張したものでしたが、それがアメリカさんや天皇関係となれば、その日の緊張感は並大抵のものではありませんでした。

この作品は、僕の初めての私戯曲になるはずです。20年以上前の記憶を頼りに書く私戯曲は、おそらく自己満足に終わることはなく、それこそ中上健次さんが「路地はどこにでもある」と仰ったように、アメリカや天皇や80年代を内包し、ある種の普遍性を持つものになるだろうと思います。日常の細部や、ささやかな声の中にこそ、僕は大きなドラマがあるのだと信じているのです。誰もが見たことがある光景なのに、誰も見たことのない芝居を作りたい。それが今の、僕の祈りにも似た気持ちです。

### 演出家からのメッセージ

#### 宮田慶子

青木豪氏の作品は、日常を独自の切り口で、スリリングに見せてくれます。一見、どこかに存在するような人間関係を描きながら、その裏にかくれた、毒をはらんだ個の姿や、欺瞞性に支えられたあやうい関係性を、引きずり出していきます。そして、それはまさしく、現代に生きる、足元の不確かな私達の姿と重なって、いとおしくも苦い現実を、あからさまに見せてくれるのです。青木氏自身が濃く投影されたこの書下ろし新作の世界に、思う存分浸らせて頂く覚悟でいます。

## おどくみ

### 青木 豪

Aoki Go

劇作家、演出家。明治大学文学部文学科演劇学専攻卒業。演劇集団円・演劇研究所を卒業後、1997年に「やりたい時にやりたい人と、はずさない芝居を……」と個人で旗揚げしたユニット、劇団グリングの全公演の脚本・演出を務める。グローブ座『エデンの東』の脚色、シス・カンパニー公演『猿のゆりかご』の作・演出などで注目され、舞台版『流星ワゴン』、劇団☆新感線プロデュース『IZO』の脚本、彩の国さいたま芸術劇場の音楽劇『ガラスの仮面』脚本、俳優座プロデュース『空の定義』の脚本などがある。また劇団公演に『吸血鬼』『jam』など。最近は舞台に止まらず、NHK『中学生日記』、HTB『ミエルヒ』、映画『遠くの空に消えた』（脚本協力）など活動の場を広げている。



### 宮田慶子

Miyata Keiko

※ P2 を参照